

【43-01】ビンピサーラ王の帰依——釈尊を訪ねる

1000人の弟子を引き連れて王舎城に行った釈尊をビンピサーラ (Bimbisāra) 王が訪ねる。はじめ王は高名なウルヴェーラ・カッサバが師であると考えが、それを知った釈尊が自分が師であることを示して、王が釈尊に帰依する。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.035) ; 世尊は象頭山に随意の間住されてから、もと結髪の修行者であった1000人の弟子を連れて王舎城に向かって遊行された。マガダ王・セーニヤビンピサーラ (rājan Māgadha Seniya Bimbisāra) をはじめとするマガダ国のバラモン・居士たち12万人に (ekādasanahutānaṃ Māgadhakānaṃ brāhmaṇagahapatikānaṃ) 法眼が生じた。
- ③ 中阿含062「頻鞞娑邏王迎仏経」(大正01 p.497中) ; 「一時仏遊摩竭陀国、與大比丘衆俱。比丘一千悉無著至真、本皆編髮。往詣王舎城摩竭陀邑」。王は世尊に会いに行ったが、鬱毘羅迦葉が師なのか、沙門瞿曇が師なのか判らなかつた。そこで世尊は神通を示して、自分が師であることを知らせ、説法して、洗尼頻鞞娑邏王および8万の天と1万2千の摩竭陀人に法眼が生じた。
- ④ 雑阿含1074 (大正02 p.279上) ; 一時仏在摩竭提国人間遊行、與千比丘俱。皆是古昔縈髮出家。皆得阿羅漢……到善建立支提杖林中住。摩竭提王瓶沙聞世尊摩竭提国人間遊行、至善建立支提杖林中住。與諸小王群臣羽從、車萬二千、乘馬萬八千、歩逐衆無数。摩竭提婆羅門長者悉皆從……。
- ⑤ 別訳雑阿含013 (大正02 p.377上) ; 一時仏遊摩竭提国、與千比丘俱。先是婆羅門耆旧有徳、獲阿羅漢。……如来往至善住天寺祠祀林中。頻婆娑羅王、聞仏到彼祠祀林間。時頻婆娑羅王即将騎隊。有萬八千輦輿車乘萬有二千、婆羅門居士数千億萬、前後圍遶往詣仏所……。
- ⑦ 四分律「受戒捷度」(大正22 p.797中) ; 爾時世尊、化此千比丘已便作是念。我先許瓶沙王請。若我成仏得一切智、先来至羅闍城。我今応往見瓶沙王。即正衣服、將大比丘千人、皆是旧学螺髻梵志、皆已得定調柔永得解脱、從摩竭国界遊化漸至杖林中……。
- ⑧ 五分律「受戒法」(大正22 p.109下) ; 爾時世尊作是念。吾昔與瓶沙王要得道度之。今応詣彼。便與千比丘前後圍遶漸漸遊行向王舎城。瓶沙王聞仏成道度優為迦葉兄弟三人及千弟子今来此邑。即勅国界四萬二千聚落、一聚落出豪傑二人出共迎仏。八萬四千人乘象馬車前後導從。爾時春末月熱已極盛。衆人各念、願得微陰。時釈提桓因知彼念、即化作雲蓋涼風微起……。
- ⑩ 根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.717上) ; 又至杖林、令摩揭陀主頻毘娑羅王住於見諦。
- ⑪ 根本有部律「出家事」(大正23 p.1027上) ; 後往杖林、令摩揭陀主影勝大王、得見真諦。與八萬天衆及摩揭陀国婆羅門居士、至王舎城、住於竹林。
- ⑫ 根本有部律「破僧事」(大正24 p.135中) ; 王聞是已嚴駕善輅、與無量百千眷属圍繞、欲往仏所禮拜供養……。爾時大王及居士等得此法已心大歡喜、從座而起整衣服、頂禮仏足右膝著地、合掌向仏而作是言。我今入此微妙之法獲大勝利、從今日已後乃至尽形歸仏法僧、為五戒鄢波索迦。不殺不盜不邪行不妄語不飲酒。作是語已便即請仏及諸苾芻。願来於我王舎城住、令我一生供養四事。世尊爾時默然受請。
- ⑬ 法賢訳「頻婆娑羅王経」(大正01 p.825上) ; 頻婆娑羅王は杖林におられる世尊に会いに行った。その時一人の婆羅門が優樓頻螺迦葉が師匠で世尊が弟子ではないかと思った。そこで世尊は自分が師匠であることを示されて説法されたので、頻婆娑羅王に法眼清浄が生じ、優婆塞となった。

[B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.082, 南伝28 p.176) ; [それから仏は] 「頻婆娑羅 (ビンピサーラ Bimbi-

- sāra) 王との約束を果たそう」と思召して、この千人の阿羅漢たちを率き伴れて王舎城（ラージャガハ Rājagaha）の附近にあるラッティ（Laṭṭhivanuyyāna 杖）林苑に入り給うた。王は林苑の番人から、仏の来り給うことを聞き、……仏の所に詣り、……如来の御足を、頭を以て礼拝し……。
- ③中本（大正04 p.152上）；於時世尊、欲詣羅閱祇、度於君民。即日羅閱祇王遣使者。……世尊以顧、將千比丘僧、今頓須波羅致樹下。……王瓶沙、……禮畢自陳、我是摩竭提王瓶沙身也。
- ⑥普曜（大正03 p.532中）；爾時世尊、在波羅奈說經已竟、……欲至摩竭流布道訓開化愚冥。時摩竭国瓶沙王。……時仏入国、有大社樹名曰遮越、仏與比丘共坐樹下。……前稽首仏足、自称其号、我是国王瓶沙身也。
- ⑦方広（大正03 p.612下）；爾時世尊從波羅奈国與優婁頻螺迦葉兄弟三人及千羅漢、至摩伽陀国。時頻婆娑羅王……爾時世尊近王舎城在遮越林……王心歡喜下車歩進、……稽首禮仏。
- ⑪仏讚（大正04 p.032上）；世尊大眷属 進詣王舎城 憶念摩竭王 先所修要誓 世尊既至已止住於杖林 瓶沙王聞之 …… 往詣世尊所 …… 前頂禮仏足 敬問體和安
- ⑫BC. (16-46) ；それから、マガダの国王との昔の約束を思い出されて、牟尼は彼ら〔千人の比丘たち〕に囲まれて、ラージャグリハ（王舎城）へ行かれた。かくて如来はヴェーヌ・ヴァナ（竹林園）に到着された。それを聞いて〔シュレーニヤ・ビンピサーラ〕王は大臣たちを従えて近づいて行った。
- ⑬行經（大正04 p.080中）；慈愍度竭王 行詣王舎城 有宿徳之人 典領摩竭境 以善居王位 徳善踰衆生 聞仏大聖尊 来入国境内 …… 王瓶沙妙容 衆王中最殊 …… 歩進詣仏所 五體禮仏足 …… 三自称名号 …… 仏以八種声 為王広説法
- ⑭過去（大正03 p.650中）；爾時世尊、心自念言。頻毘娑羅王、……有約誓言、……作此念已。即與迦葉兄弟及千比丘眷属圍遶、往王舎城、……住於杖林。……既至仏所、頭面禮足、而白仏言。我是月種摩竭提王、名頻毘娑羅。……
- ⑮集經（大正03 p.857上）；爾時彼処摩伽陀国、有粟散王、其王名曰頻頭娑羅。……王舎城、導引而出、往詣仏所、欲見如来（姪女婆羅提帝が先に仏に見えんとするも、神通により、先に来れないようにする）……到仏所已、頂禮仏足。……
- ⑯MV. (vol. III p.441, Jones III p.442) ；シュレーニヤ・ビンピサーラ (Śreṇīya Bimbisāra) 王は国師より、世尊と千二百五十人の弟子達がラージャグリハ (Rājagrha) に来られアンタギリ丘 (Antagiri) 杖林園 (Yaṣṭivana) に住しておられることを聞いた。王が仏所に行こうとすると大群衆が集まる。
- ⑰衆許（大正03 p.962下）；爾時世尊與耆旧迦葉及千阿羅漢、離譏耶山詣於王城。去城不遠有杖林塔、仏與大衆至塔而住。時民彌娑囉王……。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.045上）；頻婆娑羅王、往昔於我有約誓言。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.093上）；仏度三仙已、念言王舎本願、便詣頻婆娑羅王所、仏在竹林中。普曜云王聞仏至大悅、導從八萬四千、来至仏所咸疑師弟、乃令迦葉現通除疑。
- ④統紀（大正49 p.154中）；世尊即與頻螺迦葉及千比丘往王舎城、詣頻婆娑羅王所……王與百官出城迎仏。仏為説法。
- ⑤JM. (p.031, 畑中 p.122) ；その千人の阿羅漢位に圍繞されながら、「ビンピサーラ (Bimbisāra) 王との約束を果たそう」と、次第にラージャガハ (Rājagaha) に行つて、都城の近郊にある杖林と呼ばれる遊園 (Laṭṭhivanuyyāna) に到着した。その同じ日に彼は杖林遊園においてナーラダ・ジャータカ (Nārada-jataka) を説いた。説示が終わったとき、ビンピサーラ王は、11那

由他の人々と共に、預流果に安立した。

- ⑥Bigandet. (vol. I p.150, 赤沼 p.193) ;そこで仏陀はその約定を果さんために千人の弟子を伴うて、王舎城に向い給うた。……頻婆娑羅王は、十二万の軍勢を率い、……杖林園に赴いた。……仏陀は更に進んで苦集滅道の四諦の理を説き出し給うた。

【43-02】ビンピサーラ王の帰依----王に法眼生ず

釈尊に帰依したビンピサーラ王はじめ、諸天や臣民が法眼浄を生じる。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.037) ;ビンピサーラ王は法眼を生じて、太子の時に5つの願いがあったが、今すべてを成就したと語り、優婆塞となった。
- ③中阿含062「頻鞞娑邏王迎仏経」(大正01 p.498下) ;仏説此法時、摩竭陀王洗尼頻鞞娑邏遠塵離垢、諸法法眼生。及八萬天摩竭陀諸人萬二千、遠塵離垢、諸法法眼生。
- ④雜阿含1074(大正02 p.279下) ;仏告迦葉。我是汝師、汝是弟子、隨汝所安、復座而坐。時鬱鞞羅迦葉還復故坐。爾時摩竭提婆羅門長者作是念。鬱鞞羅迦葉定於大沙門所修行梵行。仏説此經已、摩竭提王瓶沙及諸婆羅門長者聞仏所説。歡喜隨喜、作禮而去。
- ⑤別訳雜阿含013(大正02 p.377中) ;(尊者優樓頻螺迦葉)在仏前住、頂禮仏足、合掌而言。大聖世尊是我之師、我於今者是仏之子。仏言。如是如是、汝從我學、是我弟子。仏復命言。還就汝坐。時摩竭提頻婆娑羅王、聞仏所説、歡喜奉行。
- ⑦四分律「受戒度」(大正22 p.797下) ;時摩竭國人瓶沙王為首八萬四千人十二那由他天、諸塵垢盡得法眼浄、見法得法成就諸法自知得果證。前白仏言、我等歸依仏法僧、聽為優婆塞、盡形壽不殺生、乃至不飲酒。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.110上) ;仏知大衆既已喜敬、為説種種妙法示教利喜、及説仏常所説法苦集盡道。瓶沙王及八萬四千人、即於坐上遠塵離垢得法眼浄、見法得果已受三自歸及受五戒。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.717上) ;又至杖林、令摩揭陀主頻毘娑羅王住於見諦。
- ⑩根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」(大正23 p.911上) ;頻婆娑羅王亦住見諦。次詣王舎城住竹林園、度大目連及舍利子
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」(大正23 p.948下) ;至杖林令摩揭陀主頻毘娑羅王住於見諦。并度八十百千諸來天衆無量百千摩揭陀國婆羅門等。
- ⑩根本有部律「破僧事」(大正24 p.136下) ;摩揭陀主頻毘娑羅王、及八萬天子、無量百千萬摩揭陀國婆羅門居士等、皆悉遠塵離垢得法眼浄。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.083, 南伝28 p.178) ;〔その時〕摩揭陀王〔頻婆沙羅〕(Magadharājā [Bimbisāra])は、十一万人と共に預流果に入り〔残りの〕一万人は信士となることを告白した。
- ③中本(大正04 p.153中) ;仏説是時、王及國人一萬二千、諸天八萬、皆見道跡。
- ⑥普曜(大正03 p.533中) ;時瓶沙王得法眼浄、心中欣然前受五戒。
- ⑦方広(大正03 p.613中) ;爾時頻婆娑羅王得法眼浄、欣然請仏願受五戒。
- ⑩仏讚(大正04 p.033上) ;世尊説真実 平等第一義 瓶沙王歡喜 離垢法眼生

- ⑫BC. (16-92) ; このように最高の牟尼が、最高の真実として説いた至福の教説を聞いて、マガダの国王には汚れなく塵なく測り知れない、真理を見る眼（法眼）が生じた。
- ⑬行經（大正04 p.081上）；王聞是深法 心為之悚然 即度生死淵 速得慧眼淨
- ⑭過去（大正03 p.651中）；爾時頻毘娑羅王、聞此法已、心開意解、於諸法中、遠塵離垢、得法眼淨。八萬那由他婆羅門大臣人民、……得法眼淨。九十六萬那由他諸天。又……。
- ⑮集經（大正03 p.858中）；復有師言。凡有十二那由他人、遠塵離垢、盡煩惱界、心得清淨、於諸法中、生淨法眼。……爾時摩伽陀王頻頭娑羅、已見法相、已知法相、已入法相、……得如是知自在無碍。
- ⑯MV. (vol.III p.449, JonesIII p.450) ; この法が説かれているとき、シュレーニヤ・ビンピサーラ (Śreṇīya Bimbisāra) 王は法眼淨を得た。
- ⑰衆許（大正03 p.964中）；時世尊說是法時、民彌娑囉王及八萬天人、遠離塵垢得法眼淨。及有婆羅門長者士庶等百千人衆、亦離塵垢得法眼淨。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.046下）；爾時頻娑婆羅王、聞此法已心開意解。（出因果經）
- ③氏譜（大正50 p.093上）；説偈告衆為王說法、得法眼淨。
- ④統紀（大正49 p.154中）；王及八萬那由他婆羅門大臣人民得法眼淨。
- ⑤JM. (p.031, 畑中 p.122) ; 【43-01】に含む。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.152, 赤沼 p.196) ; この説法の結果、王を始め十萬の群衆はみな、丁度かの白布の色に染まるように、直に豫流果の聖衆となったのである。

【43-03】ビンピサーラ王の帰依---- 5種の願

王は、かつて王位を継ぐこと、仏に会うこと、などの5つの願いがあったが、それが実現したと喜ぶ。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya 'Mahākhandaḥka' (vol. I p.037) ; ビンピサーラ王は法眼を生じて、太子の時に5つの願いがあったが、今すべてを成就したと語った。5つの願いととは……
- ⑦四分律「受戒毘度」（大正22 p.798上）；瓶沙王見法得法、前白仏言。自念昔日、為太子時、心生六願。一者若父寿終我登位為王。二者当我治国時願仏出世。三者使我身見世尊。四者設我見仏已生歡喜心於如来所。五者已發歡喜心得聞正法。六者聞法已尋得信解……。
- ⑧五分律「受戒法」（大正22 p.102中）；於是漸漸遊行到王舍城。瓶沙王少有五願。一者父王登遐我当紹位、二者願為王時遇仏出世、三者願身見仏親近供養、四者願發喜心得聞正法、五者願聞法已即得信解。
- ⑩根本有部律「破僧事」（大正24 p.134下）；爾時摩揭陀主頻毘娑羅、昇樓閣上乞五種願。願我国出大教導師……。
- ⑫支謙訳「萍沙王五願經」（大正14 p.779上）；聞如是。一時仏在王舍国鷄山中、與五百比丘俱。時王舍国王、号名萍比沙、少小作太子、意常求五願。一者願我年少為王、二者令我国中有仏、三者使我出入常往來仏所、四者常聽仏説經、五者聞經心疾開解、得須陀洹道。是五願、萍比沙王皆得之。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.084, 南伝28 p.178) ; 王は仏の所に坐ったまま、〔仏に〕五つの願望を告げ、仏に帰依して……。
- ⑤集経 (大正03 p.858下) ; 時頻頭王、即白仏言、如来世尊、我昔在家作童子時、発五種願、我於今日、悉得成就。何等為五。一者我在少年之時、早得王位、世尊、此是我之初願、今已得成。第二又願、得王位已、我治化内、有仏出世、此即是我第二心願、今已得成。第三又願、仏出世已、彼世尊辺、我設供養、令得歡喜、此是我心第三之願、今亦得成。第四又願、彼世尊辺、歡喜心已、為我說法、此即是我第四心願、今亦得成。第五又願、彼世尊所。為我說法、願我一切、悉得證知。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑥Bigandet. (vol. I p.153, 赤沼 p.198) ; 摩揭陀国の王、頻婆娑羅王は、豫流果に入って、世尊に申し上げるやう。「尊き仏陀よ、数年以前、私がこの国の太子であった時に、私に五つの願がありました。幸にその願を今はすべて成就することが出来ました。……」

【44】竹林園の寄進

ビンピサーラ王が王舎城の竹林精舎を寄進する (迦蘭陀長者が寄進したとするものもある)。

[A] 原始聖典

- ①Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.039) ; ビンピサーラ王は竹林園 (Veļuvana) を布施し、世尊はこれを受けられた。
- ⑦四分律「受戒捷度」 (大正22 p.798中) ; 時瓶沙王、持金澡瓶水授如来令清淨。白仏言。今羅闍城諸園中、此竹園最勝。我今施如来、願慈愍故受。仏告王言。汝今持此竹園、施仏及四方僧、何以故。若如来有園園物房舍房舍物衣鉢尼師檀鉢筒即是塔、諸天世人魔若魔天沙門婆羅門所不堪用。王言。我今以此竹園、施仏及四方僧。時世尊、以慈愍心受彼園已。
- ⑦四分律「房舍捷度」 (大正22 p.936下) ; 爾時世尊在王舎城。摩竭王瓶沙作如是念、世尊若初來所入園、便当布施作僧伽藍。時王舎城有迦蘭陀竹園、最為第一。時世尊知王心念、即往迦蘭陀竹園。王遙見世尊來、即自下象、取象上褥、疊為四重敷已、白仏言。願坐此座。世尊即就座而坐。時瓶沙王、捉金澡瓶授水與仏、白言。此王舎城迦蘭陀竹園最為第一、今奉施世尊、願慈愍故為納受。仏告王言。汝今以此園施仏及四方僧……。
- ⑧五分律「受戒法」 (大正22 p.110上) ; 於是瓶沙王稽首……。今以此竹園奉上世尊。仏言。可以施僧其福益多。王復白仏。願垂納受。仏言。但以施僧我在僧中。王便受教。以施四方僧。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.717上) ; 次至王舎城受竹林精舎。
- ⑩根本有部律「波逸底迦036」 (大正23 p.823下) ; 爾時影勝王未得見諦以竹林園施露形外道。及生淨信得見諦已、遂廢外道奉施仏僧而為受用。
- ⑩根本有部律「苾芻尼泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.948下) ; 至杖林令摩揭陀主頻毘娑羅王住於見諦。并度八十百千諸來天衆無量百千摩揭陀国婆羅門等。次至王舎城受竹林精舎。
- ⑩根本有部律「破僧事」 (大正24 p.138中) ; 王取宝瓶灌世尊掌、而白仏言。我毘婆迦蘭陀園奉施世尊、唯願納受……。
- *⑦四分律「房舍捷度」 (大正22 p.937上) ; 世尊は王舎城に住しておられ、王瓶沙に説法された。そのとき比丘たちは耆闍崛山から、王舎城に乞食に來た。大長者は比丘たちにどこに住んでいるのか、と尋ねた。比丘たちは山窟中、水辺、樹下、石辺、草上に住んでいると答えた。長者は房舎を作れば、受けてくれるかと尋ねた。世尊はそれを許されていない、と答えた。そこで房舎を作ることを許された。瓶沙王は世尊が房舎を許されたと聞いて、迦蘭陀竹林園に大講堂を作った。またある檀越は耆闍

舎を作り、ある檀越は、如象形房を作り、ある檀越は種々の房を作った。

- *⑨十誦律「雜法」（大正23 p.276下）；仏在王舎城。爾時瓶沙王於竹園中起五百僧坊。有成者有未成者。時王命終。王阿闍世到竹園中看、見是房舎即問此為誰作。比丘答言。大王、是父王所作。有成者有未成者、王便命終。王問比丘、何不成竟。答言、無直。王言、我当與直。時房舎成竟。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.085, 南伝28 p.180) ; 王は仏を初め〔比丘〕衆に大施を行い、「尊師、私は〔今や〕三宝なしには生きて行けなくなりました。……ラッティ林苑 (Laṭṭhivanuyyāna) は大そう遠く御座いますが、私どものこのヴェールヴァナ (Veḷuvana) と申す苑は、あまり遠もくなく、……仏に相応しい住処でございます。世尊、こ〔の林苑〕を私からお受け下さいませ」といつて、……竹林園を〔喜〕捨した。
- ③中本 (大正04 p.153中) ; 於時坐中、有豪長者、名迦蘭陀、心中念言。可惜我園、施與尼毘、仏当先至奉仏及僧。……長者歡喜、修立精舎……請仏及僧。
- ⑥普曜 (大正03 p.533中) ; 時摩竭国有一長者、名迦陵。見仏入国天人所奉而無精舎、我有好竹園欲用上仏。……仏及聖衆遊処其中、是故名曰迦陵竹園。
- ⑦方広 (大正03 p.613中) ; 時摩伽陀国有一長者、名迦蘭陀。見仏入国未有精舎、以好竹園奉上如来、前白仏言。……我以竹園奉上如来。
- ⑧仏讚 (大正04 p.033上) ; 爾時瓶沙王 稽首請世尊 遷住於竹林 哀受故默然
- ⑨BC. (17-01) ; それから、かの王 (シュレーニヤ・ビンビサーラ) は牟尼にその住居として幸ある森ヴェーヌ・ヴァナを献上し、真理を理解してあまねく観察し、〔ブッダの〕黙許を得て都城に帰って行った。
- ⑩行経 (大正04 p.081上) ; 爾時仏聖師 遊止竹林園
- ⑪過去 (大正03 p.651中) ; 時頻毘娑羅王、……白仏。……我從今日、供養世尊及比丘僧、当令四事不使有乏。唯願世尊、住於竹園、令摩竭提国、長夜獲安。……於竹園、起諸堂舎。……我今以此竹園奉上如来及比丘僧。……竹園僧伽藍、最為其始。
- ⑫集経 (大正03 p.860中) ; 時頻頭王、即白仏言。……我今捨施諸仏世尊招提僧等。(尼沙塞師の説)
- ⑬集経 (大正03 p.860下) ; 爾時王舎大城之中、有一長者、名迦蘭陀。(阿耆毘伽道人より、国王に奪われる前に世尊に奉施せよと助言を受く) ……布施未来三世一切衆僧來者。
- ⑭衆許 (大正03 p.965中) ; 時民彌娑囉王以仏近住、欲立精舎安仏及僧而久住止。……我今欲以迦蘭那迦竹林作仏精舎、願仏納受。世尊默然、……迦蘭那迦竹林精舎因茲所立。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.047上) ; 我從今日、供養世尊、及比丘僧、当令四事。……(出因果経) 普曜経の異説：迦陵竹園。
- ②釈迦 (大正50 p.063上) ; 釈迦竹園精舎縁記。(出四分律)
- ③氏譜 (大正50 p.093中) ; 王以竹園施仏。諸王見仏并沙為初。僧伽藍者竹園為初。
- ④氏譜 (大正50 p.096下) ; 律云。摩竭王念、仏初至園即以施住。……王……以園奉仏。仏言、当施仏僧。……中本起云。本施外道、国王追悔欲以奉仏。……菩薩藏云。過去諸仏皆遊此園、若有入者自然無慾、又無毒心。
- ⑤統紀 (大正49 p.154中) ; 国有長者、名曰迦陵。往詣仏所奉上竹園、……可作精舎。……諸僧伽藍竹園為始。
- ⑥JM. (p.031, 畑中 p.122) ; その翌日、彼はブッサ月の黒分の布薩日に (Phussa-kāḷa-uposathe)

ヴェールヴァナ (Veḷuvana 竹林) を受納し……。

- ⑥Bigandet. (vol. I p.156, 赤沼 p.200) ; 頻婆娑羅王は、仏陀を供養し奉らんために、仏陀の受け給うようなものを心中に思いめぐらした。……都城に近いあの私の園林は、仏陀及び仏弟子の方々の止宿所として最も適当であろう。……竹林 (Weloowon) と呼ばれる園林奉獻の崇厳な式を挙げた。仏陀は黙然としてその奉獻を受け給うた。

【45】 舍利弗と目連の歸仏

王舎城内でサンジャヤ (Sañjaya) の弟子であった舍利弗は、釈尊の弟子であるアッサジ (Assaji) に遇って、仏の教えである「縁起法頌」を聞いて法眼浄を生じる。これを聞いた目連も法眼浄を生じ、彼らの250人の仲間たちと共に釈尊の弟子となる。舍利弗・目連は阿羅漢果を得る。

[A] 原始聖典

- ① ‘Apadāna’ 03-01-001 (p.024) ; (舍利弗の譬喩) 私はサンジャヤというバラモンの弟子であったが、アッサジから「諸法は因より生じる。その諸法に滅あり」という仏の偈を聞いて、第一の果を得た。それを聞いて目連も果を得た。……今日私は彼 (アッサジ) によって法の將軍となった (tassāhaṃ vāhasā ajja dhammasenāpatī ahaṃ) 。
- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.039) ; その時王舎城にサンジャヤ (Sañjaya) という出家者がいて、250人の仲間と一緒にあった。舍利弗 (Sāriputta) と目連 (Moggallāna) の二人もサンジャヤに従って修行していた。舍利弗は王舎城で乞食している具寿アッサジ (Assaji) に会い、縁起法頌を聞いて、法眼を生じた。舍利弗は目連のところに行き、目連は舍利弗から縁起法頌を聞いて法眼を生じた。二人は250人の仲間と一緒に世尊のもとで具足戒を受けた。世尊はこの二人は声聞中の上首となるといわれた。
- ⑦四分律「受戒捷度」(大正22 p.798下) ; 爾時世尊、在羅闍城。時城中有刪若梵志、有二百五十弟子。優波提舍拘律陀為上首。爾時尊者阿濕卑、給侍如來。時到著衣持鉢入城乞食、顔色和悅諸根寂定、衣服齊整行步序、不左右顧視、不失威儀。時優波提舍、時已到入園觀看、見阿濕卑威儀如是。便生是念……。時優波提舍、即往至拘律陀所。拘律陀見優波提舍來、便作是語。汝今顔色和悅諸根寂定、如有所得將不見法耶。答曰。如汝所言……。
- ⑧五分律「受戒法」(大正22 p.110中) ; 爾時世尊在羅闍祇竹園精舍。彼有一邑名那羅陀。有故梵志名曰沙然。受學弟子二百五十。門徒之中有二高足。一名優波提舍、二名拘律陀。爾時頗耆著衣持鉢入城乞食。顔色和悅諸根寂定、衣服齊整視地而行。時優波提舍出遊……。我師所說、法從縁生亦從縁滅、一切諸法空無有主。優波提舍聞已、心悟意解得法眼浄。便還所住為拘律陀說所聞法。拘律陀聞、亦離塵垢得法眼浄。……時二百五十弟子皆悉樂從。
- ⑩僧祇律「雜誦跋渠」(大正22 p.412下) ; 仏告舍利弗。如來所度阿若憍陳如等五人善來出家善受具足。共一戒一竟一住一食一學一説。次度滿慈子等三十人。次度波羅奈城善勝子。次度優樓頻螺迦葉五百人。次度那提迦葉三百人。次度伽耶迦葉二百人。次度優波斯那等二百五十人。次度汝大目連各二百五十人。次度摩訶迦葉闍陀迦留陀夷優波離。次度釈種子五百人。次度跋度帝五百人。次度群賊五百人。次度長者子善來。如是等如來所度善來比丘出家善受具足、共一戒一竟一住一食一學一説。舍利弗。諸比丘所可度人亦名善來出家善受具足乃至共一説。是名善來受具足。
- ⑪根本有部律「僧伽伐尸沙002」(大正23 p.682中) ; 至尊者舍利子所住之房。告言諸妹。此是貴族婆羅門子。捨俗出家年始十六。帝釈聲明經心悟解。諸外論者並皆摧伏如世尊説
一切世間智 唯除於如來 不及身子智 十六分之一

一切人天智 皆如舍利子 不及如来智 十六分之一

於大師衆弟子之中有大智慧、具足辯才最為第一。汝心至心禮敬其足。次尊者大目連所住之房。告言諸妹。此是輔国大臣婆羅門子。捨貴勝位而為出家有大神力。能以足指動帝釈宮。於大師衆弟子之中有大威德、具大神通最為第一。汝心至心禮敬其足。

- ①根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.717上）；亦與身子目連出家受具。
- ①根本有部律「苾芻尼毘奈耶」（大正23 p.911上）；頻婆娑羅王亦住見諦。次詣王舍城住竹林園、度大目連及舍利子
- ①根本有部律「苾芻尼毘奈耶」（大正23 p.948下）；次至王舍城受竹林精舍。亦與身子目連出家近門。
- ①根本有部律「出家事」（大正23 p.1027上）；爾時世尊在竹林園。羯蘭鐸迦池側。時鄢波底沙與俱哩多、遊行人間至王舍城、乃見城中寂靜……。時鄢波底沙聞是語已、歡喜踊躍、恭敬合掌、右遶三匝、奉辭而去。便即往詣俱哩多處。時俱哩多遙見而來、告鄢波底沙曰。汝今容貌異常鮮潔、諸根清淨、為得甘露上妙法耶……。
- ①根本有部律「破僧事」（大正24 p.138中）；仏在此羯蘭鐸迦園、乃至舍利弗目連連出家、得阿羅漢道。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.085, 南伝28 p.181) ; その頃、舍利弗（サーリプッタ Sāriputta）、目連連（モッグャラーナ Moggallāna）という二人の普行沙門が、王舍城（ラージャガハ Rājagaha）の附近に住んで、不滅〔の涅槃〕を求めて居た。この二人の中で、舍利弗は阿説示（アッサジ Assaji）長老が托鉢のために入って来たのを見……偈を聞いて預流果に達し、友達の日連連普行沙門にも、その偈を説いて聞かすと、彼も亦預流果に達した。彼等二人は〔元の師〕サンジャヤに（Sañjaya）会って〔事の仔細を述べ〕自分の弟子等と俱に仏の所に詣て、出家した。二人の中で目連連は七日で（sattāhena）阿羅漢果のに達し、サーリプッタ長老は半箇月で（addhamā-sena）達した。
- ③中本（大正04 p.153中）；仏在羅闍祇竹園精舍。……彼有一卿、名曰那羅陀。故有梵志、字曰沙然、……好仙弟子、凡有二百五十人。門徒之中、有二人高足難齊、一名優波替、次曰拘律陀、（優波替が托鉢の比丘頽陞に会い、頌を聞く）優波替、方聞法義、……便逮法眼。旋還精舍、……具向拘律陀説所聞偈、……亦得法眼。……即出所止、往詣竹園、……皆成沙門。……仏謂憂波替、……復汝本字、為舍利弗、拘律陀、還字大目連。因本説法、逮得羅漢。
- ⑥普曜（大正03 p.533下）；仏有沙門名曰安陞、……入城分衛。……時舍利弗本字優波替、而遙見之心中欣然。……將諸弟子往詣仏所、……願聽出家……漏尽意解得無着果。前白仏言、吾有同学、俗字拘律、今名目連。……時舍利弗與目連連俱、往詣仏所……成無着果。……本有千弟子、得舍利弗目連二百五十人、合一千二百五十比丘、一時所度。
- ⑦方広（大正03 p.613下）；仏有弟子名舍婆耆、入城分衛……時舍利弗見此沙門、……將諸弟子至如来所、……便成沙門、……得阿羅漢。前白仏言、世尊、我與同学大目連。……隨舍利弗往詣仏所、……便成沙門、……得阿羅漢。時舍利弗目連連、及二百五十弟子、皆得出家尽成羅漢
- ⑩十二（大正04 p.147上）；五年去未至舍衛時、舍利弗作婆羅門、有百二十五弟子坐一樹下。時目連為彌夷羅國中作承相將軍。（舍利弗が樹下に坐し、道を学んでいると聞き、百二十五人の部下と同学となる）舍利弗入城分衛、見仏弟子馬師比丘。……於是舍利弗便得須陀洹道、歡喜便還報目連言。……目連便復得須陀洹道。……舍利弗七日得阿羅漢、目連以十五日得阿羅漢。
- ⑪仏讚（大正04 p.033上）；時阿濕波誓 …… 時至行乞食 入於王舍城 …… 迦毘羅仙人 広度諸弟子 第一勝多聞 其名舍利弗 …… 隨聽心内融 遠離諸塵垢 清淨法眼生 …… 俱

行詣仏所 與徒衆弟子 二百五十人 …… 二師及弟子 悉成比丘儀 …… 皆得羅漢道

- ⑫BC. (17-03) ; ときにアシュヴァジト (馬勝) は……托鉢をしようとしてラージャグリハに到着した。……カピラ仙の家系の比丘で、多くの弟子を持ち、シャーラドヴァティープトラ (シャーリプトラ。舍利弗) という名で広く知られた者が、……彼を見て、……声をかけた。……バラモン (二生----シャーラドヴァティープトラのこと) の、眼は真理に開かれ……帰ってくるのを見て、……マウドガラの氏姓に生まれた者 (マウドガリヤーヤナ、目連) が問いかけた。……聞いて [マウドガリヤーヤナ] 自らに正しい眼が生じた。……ブツダの威力によって彼らは一瞬のうちに黄褐色の上衣 (袈裟) をまとった比丘 [の姿] となった。
- ⑬行經 (大正04 p.081上) ; 比丘名馬師 …… 行詣王舎城 …… 外学甚明達 厥名曰受訓 …… 彼聞是四句 …… 憂婆替即時 逮得慧眼淨 因為目健連 再遍説四句 応時見道跡 俱行詣仏 與五百門徒 …… 発声称沙門 威儀即備悉 二賢先見道 俱逮羅漢果
- ⑭過去 (大正03 p.652上) ; 于時王舎城中、有二婆羅門。……一姓拘栗、名優波室沙、母名舍利故、举世喚為舍利弗。二姓目健連、名目健羅夜那。各有一百弟子。……爾時阿捨婆耆比丘、……入村乞食。……時舍利弗。聞阿捨婆耆説此偈已、……得法眼淨。……爾時目健羅夜那、聞舍利弗説此語已、……得法眼淨。……二人、即將二百弟子、往詣竹園……即成沙門、……即得阿羅漢果。
- ⑮集經 (大正03 pp.873下) ; 優婆低沙、……拘離多、……於彼波離婆闍外道法中、出家修道。……一長老比丘、名優婆斯那。(阿輸波踰祇多) ……二人、……得法眼淨。……時刪闍耶波離婆闍迦、……吐大熱血。……詣向仏所、……出家。……優波低沙、從出家後、始經半月、……證羅漢果。時拘離多、止經七日、……證羅漢果。……五百眷属、悉得出家。
- ⑯MV. (vol. III p.056, Jones III p.056) ; ラージャグリハ (Rājagṛha) の近くにウパティシュヤ (Upatiṣya) とコーリタ (Kolita) というバラモンの息子がいた。二人はサンジャイン・ヴァイラティープトラ (Sañjayin Vairāṭiputra) という遊行者の弟子となる。ウパティッシュヤは町で導者ウパセーナ (Upasena) に会い、縁起の法を聞いて法眼淨を得、これを聞いたコーリタも法眼淨を得て、二人は五百人の同行者と共に世尊を訪ね、善来比丘戒を受ける。コーリタは七日後 (saptāha-)、ウパティシュヤは二週間後に (ardhamāsa-) 阿羅漢果を得る。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.047中) ; 于時王舎城中、有二婆羅門。(出因果經)
- ③氏譜 (大正50 p.093中) ; 經云。仏在竹園、王城二婆羅門、……各有一百弟子共為親友。有阿耆比丘入城乞食。舍利弗見心異遍身、具問所学略説一偈、便得初果。還為目連再説得道。即將弟子往詣竹園、……便呼善来出家悟聖。
- ④統紀 (大正49 p.154中) ; 七年(丙戌)婆羅門舍利仏、路逢婆耆比丘説偈、得法眼淨。歸與親友目健連、宣説偈言、亦得法眼淨。即各將一百弟子往詣竹園、求願出家、仏呼善来比丘、……即成沙門、……亦成阿羅漢。
- ⑤JM. (p.031, 畑中 p.123) ; プッサ月の自分の最初の日に⁽¹⁾、250人の遊行者たちと共に、2弟子を出家せしめた。彼等のうち、大目健連 (Mahāmoggallāna) はマーガ月の7日目に (Māghamā sassa sattamiyam) ……大舍利弗 (Mahāsāriputta) はマーガ月の満月の日に (Māghapūṇamiyam) 声聞波羅蜜智の頂点に達した。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.158, 赤沼 p.204) ; 王舎城には刪舍耶 (Thindzi) と呼ぶ、異端の師があった。その当時、舍利弗 (Thariputra) と目連 (Maukalan) とは、その師の教を受けて、徳行を研いていた。(舍利弗は阿説示から法を聞き、豫流果に入り、舍利弗からこれを聞いて目連も豫流果に入る。) 二人は二百二十人の仲間を連れて、仏陀の許に走った。……七日にして、目連は阿羅漢となり、舍利弗は十五日を要して阿羅漢のさとりをひらいた。

- (1) プッサ月の黒分に (Phussa-kā]a-uposathe) Veļuvanaを受納し、その次の最初の日 (pāṭipadadvase) とは、すなわち、プッサ月の白分の最初の日である。

【46】大迦葉の帰仏

すでに出家していた大迦葉 (Mahākassapa) が釈尊を阿羅漢と認めて弟子となり、妙衣を脱いで釈尊の糞掃衣と交換する。

[A] 原始聖典

- ①SN.16-11 (vol. II p.220) ; 出家した私 (Mahākassapa) は王舎城とナーランダールの中にあるバフプッタ・チェーティヤ (Bahuputta cetiya) に坐っておられる世尊に会って出家し、第8日目に智を生じた (aṭṭhamiyā aññā udapādi) 。そして世尊と糞掃衣 (paṃsukūla) を交換した。
- ④雑阿含1142 (大正02 p.302上) ; 世尊は舎衛国・祇樹給孤独園におられた。その時摩訶迦葉はぼろぼろの衣を着て、髪をぼうぼうにして現れた。比丘達は威儀を知らないと考えた。世尊は比丘たちの気持ちを知って、半座を分け与え、「汝は先に出家し、我は後に出家した」といわれた。迦葉はそれでも師であるからと傍らに坐った。世尊は禪定においても、神通力においても自分に等しいと迦葉を褒められた。
- ④雑阿含1144 (大正02 p.303中) ; 我出家已、於王舎城那羅聚落中間多子塔所、遇值世尊、正身端坐、相好奇特、諸根寂靜、第一息滅、猶如金山。……仏告迦葉。汝当受我糞掃衣、我当受汝僧伽梨。仏即自手授我糞掃納衣。我即奉仏僧伽梨。如是漸漸教授、我八日之中、以学法受於乞食。至第九日起於無学。
- ⑤別訳雑阿含117 (大正02 p.416下) ; 雑阿含1142に同じ
- ⑤別訳雑阿含119 (大正02 p.418中) ; 世間若有阿羅漢者、我当帰依、隨其出家。時彼王舎大城中間有羅羅健陀。羅羅健陀中間有多子塔。……我昔推求出世之師。今所見者真是我之婆伽婆阿羅呵三藐三仏陀也。作是念已心不散乱、專念觀仏。更正衣服右遶三匝、踰跪合掌。白仏言。仏是我世尊。我是仏弟子。如是三説。仏亦復言。如是迦葉、我是汝世尊。汝是我弟子。亦復三説。……爾時如来。即受迦葉所著大衣。我於是時自從仏手受是儗那糞掃之衣。仏授我已即便起去。我随仏後。遶三匝、為仏作禮、即還所止。我於八日、学得三果。至第九日、尽諸有漏得阿羅漢。
- ⑩僧祇律「雜誦跋渠」 (大正22 p.412下) ; 仏告舍利弗。如来所度阿若憍陳如等五人善来出家善受具足。共一戒一竟一住一食一学一説。次度滿慈子等三十人。次度波羅奈城善勝子。次度優樓頻螺迦葉五百人。次度那提迦葉三百人。次度伽耶迦葉二百人。次度優波斯那等二百五十人。次度汝大目連各二百五十人。次度摩訶迦葉闍陀迦留陀夷優波離。次度釈種子五百人。次度跋度帝五百人。次度群賊五百人。次度長者子善来。如是等如来所度善来比丘出家善受具足、共一戒一竟一住一食一学一説。舍利弗。諸比丘所可度人亦名善来出家善受具足乃至共一説。是名善来受具足。
- ⑪根本有部律「僧伽伐尸沙002」 (大正23 p.682中) ; 至尊者大迦葉波所住之房。告言諸妹。此是大婆羅門勝妙之族。捨九百九十九具犁牛、二百余碩碎金大麥、六十億金錢、有十八封邑僕使傭人、有十六聚落興易商估。妻名迦畢梨身如金色儀容美麗無與等者。如此衆事並皆棄捨如捐洩唾於後夜時捨百千上服著龜氈僧伽胝、帰仏出家住於林藪。假使狂象举目視之便捨狂醉、少欲知足修杜多行。於大師衆弟子之中威德尊重最為第一。汝応至心禮敬其足。
- ⑪根本有部律「苾芻尼波羅市迦001」 (大正23 p.908中) ; 摩揭陀国に尼拘律という婆羅門に子が生まれ、畢鉢羅樹に祈って得られたので畢鉢羅、氏族にしたがって迦提波と名づけられた。長じて劫比羅城の劫比羅婆羅門の娘・妙賢と結婚したが、2人は隠遁を願っていたので、12年間互

いに身体も触れなかった。父母が亡くなったので共に出家し、迦提波は阿羅漢に会ったら弟子になろうと心にきめて隠士となり、多子制底に住んでいた。時に世尊は6年の苦行の後、歡喜・歡喜力の供養を受け、黒龍の讚歎を得、吉祥の草を敷いて、36億の天魔を降伏して菩提樹下で無上覚を証し、鹿野苑で初転法輪し、次いで大軍婆羅門と2牧牛女に初果を証せしめ、留髻外道1000人を帰仏させ、ピンピサーラ王を見諦させ、舍利弗・目連を度し、室羅伐城で勝光王を少年経を説いて調伏し、勝鬘夫人・毘盧將軍・仙授等に説法した後、隠士迦提波を化す時であると知られ、仏栗国に遊行して、広巖城多子制底に行かれた。迦提波は世尊に会うなり、「これは我が師、我はこれ弟子なり」と言って弟子となり、衣を交換して、第9日目に阿羅漢果を得た。元の妻・妙賢は無衣外道の輔哺刺孛の弟子となり苦勞していたが、後に大世主の弟子となり比丘尼となったが、未生怨王に辱められた。

[B] 仏伝経典

- ③中本（大正04 p.161上）；爾時世尊在舍衛國祇樹給孤獨園、為衆說法。……於是摩訶迦葉、垂髮弊衣、始來詣仏。世尊遙見歎言、善來迦葉、豫分半床、命令就坐。
- ④①仏讚（大正04 p.033下）；爾時有二生 迦葉族明灯 多聞身相具 財盈妻極賢 厭捨而出家 志求解脫道 路由多子塔 忽遇釈迦文 …… 命之以善來 …… 領解諸深法 成四無碍辯 大德普流聞 故名大迦葉
- ④②BC. (17-23)；そのときカーシュヤパの氏姓の灯明であったバラモン（二生）で、容色、姿形そして財産にも恵まれた者が、その富貴と賢き妻とを打ち棄て、解脫を求めて黄褐色の上衣をとって〔家を〕出た。彼はバフプトラカ（多士塔）……かたわらで……〔ブッダを〕見て、……合掌して近づいた。……牟尼が教えをわずかばかりお説きになったときに、彼はすべての意味を正しく理解したので、その透徹した知（無礙弁）と年長さからマハー・カーシュヤパ阿羅漢と名づけられた。
- ④③行經（大正04 p.081下）；時有大姓子 名曰藥樹生 捨金色妙英 剃頭被袈裟 …… 今始得睹仏 …… 向仏遙稽首 …… 善來賢明士 …… 即時逮果證
- ④④過去（大正03 p.653上）；爾時偷羅厥叉國、有一婆羅門、名曰迦葉。……已即捨家事、入於山林、……而着壞色納衣、自剃鬚髮。……聞天語已、……即便往趣竹園僧伽藍。爾時世尊、……到子兜婆、而逢迦葉。……于時迦葉、聞此言已、即便見諦、乃至得於阿羅漢果。……有大威德、智慧聰明、是故名之、為大迦葉。
- ④⑤集經（大正03 p.861下）；而彼村內（新豎立又は摩訶娑陀羅）、有一大富婆羅門、名尼拘盧陀羯波（隋言堪用樹）。……而產生一童子、……名畢鉢羅耶那（隋言樹下生）。……生於大迦葉種姓之內故、於世間得迦葉名。彼出家已、……次第遊行、……至那荼陀村王舍大城。其間忽見如來在彼一神祇處。……經於七日、至於八日、如教生智。
- ④⑤集經（大正03 p.866下）；……。於時世尊、即授長老摩訶迦葉麤糞掃衣、世尊便受摩訶迦葉所著妙服。
- ④⑥MV. (vol. III p.050, Jones III p.050)；（後に竹林精舎での阿難との問答の中で）私は満一年の遊行生活の終わりにラージャグリハ（Rājagṛha）のバフプトラカ・チューティヤ（Bahuputra-ka cetiya）に於て世尊にお会いした。……私は8日間は（aṣṭāham）未だ学ぶべき身（śaikṣo sakaraṇīyo）であったが、9日目に（navame）阿羅漢果に到達した。……私は自分の綿の下衣を世尊のために広げ、世尊はそこに座られた。世尊は「お前は、これの代りに私の大麻の糞掃衣を欲しいと思っているのか」と云って、私に世尊の糞掃衣をくださった。

[C] 後世の仏伝資料

- ① 釈迦（大正50 p.049上）；爾時儉羅厥叉国、有一婆羅門名曰迦葉。（出因果經）
- ③ 氏譜（大正50 p.093中）；有儉羅国婆羅門名曰迦葉、……巨富能施妻亦相具、俱無世慾捨家入山。……空天告言、今有仏出便趣竹園仏往迎之與共承受說法。悟阿羅漢有大威徳、天人所重故名大也。
- ④ 統紀（大正49 p.154中）；時有婆羅門名曰迦葉、極為巨富捨家入山自剃須髮。……迦葉即趣竹園、仏為說法得阿羅漢。以有大威徳智慧、名之為大迦葉。……迦葉於多子塔値仏、乃求出家、即以弊衣奉仏為座。價直十萬兩金。仏即授商那納衣。

【47】王舎城の人々の非難

多くの王舎城の男たちが出家したので、母や妻などから「釈尊がやってきて家系を断絶させる」という非難が生じる。しかしこの非難は7日間で滅する⁽¹⁾。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhanda’ (vol. I p.043)；王舎城の人々は「沙門ゴータマがやってきて、子なき状態にし (aputtakatāya paṭipanno)、寡婦にさせ (vedhavyāya paṭipanno)、家系を断絶させる (kulupacchedāya paṭipanno)」と非難した。この非難は7日を過ぎて滅した (sattā-hassa accayena antaradhāyi)。
- ⑦ 四分律「受戒捷度」（大正22 p.799中）；爾時諸比丘乞食時聞此諸人所説。此大沙門將諸梵志自随來此、今復當將此諸人去。諸比丘聞已皆懷慚愧。往世尊所、以此因縁具白世尊。世尊告諸比丘……。

[B] 仏伝經典

- ⑤ 集経（大正03 p.882中）；爾時婆伽婆度長老舍利弗及目犍連五百人等、……從摩伽陀国、次第遊行、……到王舎城(摩訶僧祇師作如是説)。……於時多人、道説毀訾、各各唱言。沙門瞿曇、當令我等無有子息、……絶我後胤。……爾時世尊告諸比丘。汝等當知、如是音声、不応多時唯至七日。

[C] 後世の仏伝資料

- ⑥ Bigandet. (vol. I p.163, 赤沼 p.210)；摩揭陀国の住民は、主に社会の最上層に位する多くの人々が相率いて沙門の生活に入るのをみて、互に囁き合うようになった。「みよ、沙門喬答摩はその法を説きて人民の種を絶やして仕舞うのではないか」……仏陀は諸弟子を慰めて、「……七日の後には全く絶えて仕舞うであろう」

(1) 非難が生じたとするエピソードを紹介せず、国中が皈依したとするものもあり、これも参考のために以下の中に掲げておいた。

【48-01】故郷へ帰る——浄飯王が釈尊の帰郷を切望する

釈尊の出家以来心配していた父の浄飯王 (Suddhodana) が、釈尊が仏になったと聞いて会うことを切望する⁽¹⁾。

[A] 原始聖典

- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.717上）；時勝光王遣使持書往淨飯王所。白言大王。王今慶喜、太子已證無上正覺、亦令有情同飡甘露、今現住在逝多林中。時淨飯王聞此信已、以手支頰懷憂而歎。往日一切義成太子修苦行時、我常遣使問其安不、使者尋還報我住處。比令使問竟無一還。今者云來逝多林內、其事如何……。
- ⑪根本有部律「苾芻尼毘奈耶」（大正23 p.948下）；時勝光王遣使持書往淨飯王所、白言大王、王今慶喜。太子已證無上正覺亦令有情同飡甘露。今現住在逝多林中。時淨飯王聞此信已以手支頰懷憂而歎。往日一切義成太子修苦行時、我常遣使問其安不。使者尋還報我住處。比令使問竟無一還。今者來至逝多林內、其事如何。
- ⑫根本有部律「破僧事」（大正24 p.143上）；（祇園精舎を受けられた後）仏在室羅筏城逝多林給孤獨園、與大苾芻衆俱。爾時憍薩羅國勝軍大王、遣使持書向劫比羅城、與淨飯王書曰、王欣欣慶、王之太子得成正覺、獲甘露法、以微妙義普施群生、皆得充足、深助歡喜。時淨飯王得書讀已、情甚欣悅、以手掌頰默然而住、面有憂色。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.085, 南伝28 p.182)；如来が竹林園 (Veḷuvanuyyāna) に在す頃、淨飯 (Suddhodana) 大王は、「予の王子は六年間苦行を行い、最上の上菩提に達して、勝れたる法輪を転じ、王舎城 (Rājagaha) に近い竹林園に住んで居るといふ噂である」と聞いて、一人の大臣を呼び寄せ、「……予の王子を伴れて来てくれ」と言いつけた。（使者は仏の説法を聴聞し、阿羅漢果を得、出家）→迦留陀夷 (カールダーイ Kāḷudāyin) 派遣
- ③中本 (大正04 p.154上)；於是如来将歸舎夷。與大比丘僧、皆得応真。……賢者舍利弗、大目犍連、鬱俾迦葉、那提迦葉、伽耶迦葉等、一千二百五十人。
- ⑥普曜 (大正03 p.534中)；時王遙聞子得仏道、已來六年。王念仏已心中悲喜、飢虚欲覩。
- ⑦方広 (大正03 p.614上)；爾時輪檀王聞子得道已經六年、中心欣喜飲渴彌積。
- ⑮集経 (大正03 p.889下)；即於彼時、頭檀王、聞子悉達……既覺證已、至波羅奈、轉大法輪。……爾時輪頭檀王、於世尊所、倍更憶念、作是思惟。設何方便、令彼太子、感諸眷族速來至此迦毘羅城。
- ⑯MV. (vol. III p.092 Jones III p.095)；世尊は、出家された時から、成道された時から、七年間 (saptahi varṣehi) 故郷を見ることがなかった。七年の終りに (saptānām varṣānām atyayena) 釈迦族から、昇天した天子から「今や故郷の人々に慈悲を与える時である」と請われ、これを承諾された。
- ⑰衆許 (大正03 p.969下)；爾時世尊於舎衛国化利畢已、思欲往彼迦毘羅城。時勝軍王承仏化……奉書上淨飯王。……淨飯王……即思慮、……今若遣使定化出家。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.049下)；……王遙聞子得仏道、已來六年……。
- ③氏譜 (大正50 p.093中)；普曜云。王聞得道已經六年、悲喜欲見。
- ④統紀 (大正49 p.155上)；時父王遙聞子得仏道已六年来。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.165, 赤沼 p.213)；淨飯大王は今まで、太子の出城以後六年の大苦行の間、太子のことを思うては憂愁に堪えず、……今一度太子に遇いたいものであると願ひ望まれて、……宮臣を招き、「……迦維羅婆蘇都へ一緒に帰って下さいと御願ひせよ」と命ぜられた。……斯ういうことが七度も繰り返された。

(1) 資料によっては舎衛城で、祇園精舎の寄進を受けてから帰郷するというものもある。ここで

はブッダチャリタなどの順序にしたがった。

【48-02】故郷へ帰る——ウダーイが帰郷を促す

父王の願いをウダーイ (Udāyin) が使者になって釈尊に伝える⁽¹⁾。

[A] 原始聖典

- ① ‘Apadāna’ 03-55-545 (p.504) ; そのときウダーイ長老 (Udāyi-thera) に請われて、哀愍されて世間の導師 (Lokanāyaka) は釈迦族のカピラヴァットウに行かれた (upesi Kapilavhaya m) 。
- ⑥増一阿含24-05 (大正02 p.622下) ; 是時尊者優陀耶遙見世尊向迦毘羅衛坐。見已、便作是念。世尊必当欲往至迦毘羅衛見諸親里。是時優陀耶即前長跪、白世尊曰……。
- ⑩根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」 (大正23 p.717中) ; 時鄢陀夷持王勅書往室羅伐。至世尊所奉上勅書。世尊受書便自披讀。時鄢陀夷白世尊曰。世尊能向劫比羅城不。
- ⑪根本有部律「苾芻尼毘奈耶」 (大正23 p.948下) ; 時淨飯王自裁書曰
始從受胎後 長養於世尊 煩惱火恒然 常希最勝樹
今既得成仏 徒衆數無辺 余人受安樂 唯吾未除苦
書了印訖付鄢陀夷。
- ⑫根本有部律「破僧事」 (大正24 p.143上) ; 時王大臣、名烏陀夷。見王愁惱仰白王言。大王、何故以手掌頰心生憂惱默然而住……。

[B] 仏伝経典

- ①NK. (vol. I p.086, 南伝28 p.184) ; ……仏は、仏と成り給うて後、最初の内安居をイシパタナ (Isipatana) で過し、安居を終って自恣を行ひ給うと優樓頻羅 (ウルヴェーラー Uruvelā) に赴いて、其処に三箇月 (tayo māse) を過し、三人兄弟の結髮行者を教化し、一千人の比丘衆を伴れて弗沙 (プッサ) 月の満月の日に (Phussamāsapuṇṇamāya) 王舎城 (Rājagaha) に赴いて、其処に二箇月間 (dve māse) 在した。これまでで、婆羅奈 (バーラーナシー Vārāṇasi) を出で給うて以来、五箇月になり、寒冷期はすっかり過ぎて了った。そして優陀夷 (ウダーイン Udāyin) 長老が来てから〔已に〕七八日を過ぎた。彼〔長者〕は、巴迦那 (パグナ) 月の満月の日になって (Phagguṇipuṇṇamāsiyam) 考えた。「……今や十力者が親族に好意を示し給う時である」と。そこで彼は世尊の所へ往って……その故郷の都へ赴き給うよう、その行を誉めたたえた。
- ③中本 (大正04 p.154上) ; 是時迦維羅越王闍頭檀、遣梵志憂陀耶、來詣竹園、請仏還国。
- ⑥普曜 (大正03 p.534中) ; 有一梵志名優陀耶。……王告憂陀、往請迎仏、問訊。別闍以來十有二年、……思一相見如復更生。優陀耶受教、往詣仏所稽首仏足、具以王意白仏。
- ⑦方広 (大正03 p.614上) ; 語優陀夷言。汝今可往請仏還国問訊起居。離別已來十有二載、……得一相見還如更生。憂陀夷受王教已、往詣仏所、稽首仏足具述王意。
- ⑮集経 (大正03 p.889下) ; 此憂陀夷国師之子、次復車匿、此之二人。……我今当遣往彼為使。
- ⑯MV. (vol. III p.091, Jones III p.093) ; 釈迦族の人々は、「世尊が法輪を転じ、ラージャグリーハ (Rājagṛha) に住しておられると聞いて、シュッドーダナ (Śuddhodana) 王に使者を送るよう要請し、チャンダカ (Chandaka) とカーローダーイン (Kālodāyin) 」の二名が使者となる。
- ⑰衆許 (大正03 p.970上) ; 時有大臣名烏那曳曩、……王受書、速至舎衛行詣精舎、……白仏言。今請世尊、去迦毘羅城。仏言、我去。

[C] 後世の仏伝資料

- ① 釈迦（大正50 p.049下）；……有一梵志名優陀耶。
- ③ 氏譜（大正50 p.093中）；普曜云。……有梵志名優陀夷……王令往請別闢已來、經十二年思一相見。
- ④ 統紀（大正49 p.155上）；令梵志優陀耶、往迎仏曰、別潤以來十有二年、……思欲一見。優陀耶受教詣仏。願求出家即得阿羅漢。
- ⑤ JM. (p.032, 畑中 p.124)；大師はウルヴェーラー（Uruvelā）で3ヵ月（tayo mase）、ラージャガハ（Rājagaha）で2ヵ月（dve māse）過ごしたので、ヴァーラーナシー（Vārāṇasī）からの出発からこの時までが5ヵ月（pañca māsā）経過した。さて、このように世尊がここかしこで過ごしている時、スッドーダナ（Suddhodana）王は「私の息子は6年間（chabbassāni）苦行し、最高の現等覚を得て、最もすぐれた法輪を転じつつ、ラージャガハに行き、竹林園（Veḷuvanavihāra）で過ごしている」ということを聞いて、……10人の大臣を使いに出した。……パグナ月の満月の日に（Phagguṇapūṇṇamiyaṃ）一番最後の使者、カールダーイン（Kāḷudāyin）長老は、……世尊に近づき、「スッドーダナ大王があなたに会いたく思っております……」と言った。
- ⑥ Bigandet. (vol. I p.169, 赤沼 p.216)；浄飯王は数多の宮臣を眺めて、斯ういう難事には最も適当な人である迦楼陀夷（Kaludari）を呼び出された。彼は直ちに一千名の従者を連れて王舎城に向うた。竹林舎舎に着いて前の使者と同じく仏の説法を聞き、従者達と共に沙門果を開いた。迦楼陀夷の到着後七日目に「……陛下は私に仏をお迎え申すよう御命令を下されました」

(1) チャンダカ（Chandaka ; skt.）とカーローダーイン（Kālodāyin ; skt.）とするものもある。

【48-03】 故郷へ帰る——カピラヴァットゥへ

釈尊が父王の願いにしたがって、故郷のカピラヴァットゥ（Kapilavatthu）に帰る。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.082)；釈尊は随意の間王舎城に住されてから、カピラヴァットゥ（Kapilavatthu）に行かれ、ニグローダ園（Nigrodhārāma）に住された。
- ⑥ 増一阿含24-05（大正02 p.623中）；是時世尊即將諸比丘、前後圍繞、往詣迦毘羅衛國。到已、便詣城北薩盧園中。是時真淨王聞世尊已達迦毘羅衛城北薩盧園中。是時真淨王將諸積衆、往詣世尊所。
- ⑩ 僧祇律「単提042」（大正22 p.365中）；迦維羅衛國父子相見此中（鼈本生經）広説。
- ⑪ 根本有部律「泥薩祇波逸底迦004」（大正23 p.718下）；昔時去日百千天衆隨從空中、於劫比羅城圍繞而去。今者獲得無上妙智更乃足歩而還。欲令諸人息輕慢心故、我今應以神變入劫比羅城……。（このとき浄飯王は見諦したので、王位を釈迦童子の賢善に譲った。p.720中）
- ⑫ 根本有部律「破僧事」（大正24 p.144上）；爾時世尊作如是念。我若步行入劫比羅城、諸積迦種皆是高心、若見步行必当恥笑作如是語、此悉達太子出家之時、無量諸天圍繞騰空而去、多時苦行得甘露味、成等正覺、今步行入城。作此念已即入三摩地、沒即現東方……。

[B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.087, 南伝28 p.186)；〔仏は〕……王舎城（Rājagaha）を出発して日々一由旬を進み給ひ「王舎城から迦毘羅衛（Kapilavatthu）までは六十由旬あるから、二箇月で著こう」

と急がぬ旅に出で給うた。

- ③中本（大正04 p.155上）；其日世尊、起於竹園、與比丘僧千二百五十人俱、威神感動諸天侍從、始入舍夷。
- ⑥普曜（大正03 p.534中）；仏自念曰。本與父王要得仏道爾乃還国当度父母、今正応還。……先遣神足弟子比丘優陀耶、往顯示神足知仏欲往。
- ⑦方広（大正03 p.614上）；爾時世尊作是思惟。本與父王要誓成仏爾乃還国当度父母。……爾時如來到七日已、與諸弟子整持衣鉢、威儀詳序向迦毘羅城。
- ⑩十二（大正04 p.147中）；十二年還父王国。為釈氏精廬。去城八十里、為差摩竭説法。還国為父王及釈迦種説法、度八萬四千人、得須陀洹道。
- ⑪仏讚（大正04 p.036下）；出彼五山城 與千弟子俱 前後眷属從 往詣尼金山 近伽維羅衛 而生報恩心 …… 王師及大臣 先遣伺候人 …… 知仏欲還国 …… 王聞大歡喜 嚴駕即出迎
- ⑫BC. (19-01) ；……〔ラージャグリハの〕五山と都城から去って、……〔カピラヴァストウの〕都城へ向われた。そしてちょうど千人の弟子を教化したときであったが、進み行きて、彼（ブツダ）は父の国に著かれた。そしてそこで父王や国人たちに恵みを施そうと思われて、自分の生国の端におとどまりになった。
- ⑮集経（大正03 p.890下）；爾時世尊、即告長老優陀夷言。汝優陀夷、若其然者、汝等二人、於先可至彼迦毘羅婆蘇都城、告我親眷諸釈種等、作如是言。今者太子、苦行已徹、愍汝等故、不久欲來。其優陀夷、及彼車匿。蒙仏勅已、而白仏言。唯然世尊我不敢違。頂禮仏足、右遶三匝、辭退而去。次第漸行至迦毘羅婆蘇都城尼俱陀林、依彼聚落、暫時止住。
- ⑰衆許（大正03 p.971上）；爾時世尊與是眷族隨路而去、次第遊化至迦毘羅城。不遠有嚙賀迦河。時淨飯王將諸眷族及大小臣同在河邊。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦（大正50 p.049下）；仏自念言。本與父王要得仏道、爾乃還国当度父母、今正応還。……先遣神足弟子、比丘優陀耶、往顯示神足、知仏欲往。
- ③氏譜（大正50 p.093中）；普曜云。……王出四十里迎仏。……
- ④統紀（大正49 p.155上）；仏念、今將還国当度父母。
- ⑤JM. (p.032, 畑中 p.125) ；「よろしいウダーイン (Udāyin) よ」と世尊は、2万人の漏尽比丘を従えて、白月の最初の日に (pāṭipade) (1)ラージャガハを出発し……1日1由旬ずつ進んで2ヶ月して、ヴェーサーカ月の満月の日に (Visākhapuṇṇamiyaṃ)、カピラプラ (Kapila-pura) に到着した。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.170, 赤沼 p.218) ；この時には摩揭陀の一萬の沙門果を得たる比丘と、迦維羅城から来た一萬の沙門果を得たる比丘とが仏世尊に従って旅をしたのである。兩國の距離は六十由旬あって、この道程を行くに六十日を費したのであるから、一日に平均一由旬ずつ旅行したのである。

(1) 「白月の最初の日に (pāṭipade)」とは「パグナ (Phagguṇa) 月の白分の初日に」の意。

【49-01】ナンダとラーフラの出家----ナンダの出家

カピラヴァットゥに帰った釈尊は、はじめに異母弟のナンダ (Nanda、難陀) を出家させる。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.082) ; 世尊がラーフラを出家させたとき、浄飯王は「世尊が出家されたときには私の苦しみは少なくなかった。難陀の時もそうであった。しかしラーフラの場合は極めて大きい (bhagavati me pabbajite anappakaṃ dukkhaṃ ahosi, tathā Nande, adhimattaṃ Rāhule)」と嘆き、父母の許さない子を出家させないでほしいと願って、許された。
- ⑦ 四分律「受戒鍵度」(大正22 p.810上) ; 爾時輪頭檀那王、聞仏度羅睺羅出家。悲泣來僧伽藍中至世尊所。到已頭面禮足在一面坐。一面坐已白世尊言。世尊出家我有少望心、而難陀童子當為家業、而世尊復度令出家、難陀既出家已……。
- ⑧ 五分律「受戒法」(大正22 p.117上) ; 時浄飯王、聞仏已度羅睺羅、便大懊惱、出詣仏所白仏言。仏昔出家尚有難陀、不能令我如今懊惱。難陀已復出家、余情所寄唯在此子。今復出家。
- ⑨ 十誦律「受具足戒法」(大正23 p.152下) ; 仏在迦毘羅婆城。爾時浄飯王詣仏所……。王言。仏出家時、我心愁憂不忍不喜。難陀羅睺羅後諸子出家時、我心愁憂不忍不喜。今仏與我願。父母不放不得與出家……。從今父母不放不得與出家。若與出家、得突吉羅罪。
- ⑩ 根本有部律「僧伽伐尸沙002」(大正23 p.682下) ; 至尊者難陀所住之房。告言諸妹。此是仏親弟。捨俗出家。若不出家為力輪王。於大師衆弟子之中、善護諸根能防外境最為第一。汝心至心禮敬其足。
- ⑪ 根本有部律「出家事」(大正23 p.1035上) ; 仏在劫比羅城尼瞿陀林中住。時浄飯王……白仏言。世尊、唯願世尊與我一願。世尊問曰。大王、求何願耶。王曰。有少許願然諸積種為言。世尊當作轉輪聖王、乘空往四天下、我等亦隨世尊。既出家已。我等所望悉皆不得。復次難陀當作力輪王、彼亦世尊度令出家亦絕希望。羅怛羅有大威德、當作大王、世尊今亦令其出家、我等積種亦絕希望。

[B] 仏伝經典

- ① NK. (vol. I p.091, 南伝28 p.195) ; 第二日目に (dutiya divase)、難陀 (ナンダ Nanda) 王子の即位式、新殿入初めの式、婚礼式が行われている時、仏は彼の家に来て、……彼を出家させようと思って祝呪を唱え、……。斯うして仏は、迦毘羅衛 (Kapilapura) の都へ来て第三日目に (tatiya divase) 難陀を出家させ給うた。
- ⑥ 普曜 (大正03 p.536中) ; 時仏弟難陀亦作沙門。來下鬚髮。時難陀有典監、作剃頭師。……即成沙門、禮諸沙門因隨次坐。難陀在後作次第禮、到此沙門則住不禮。
- ⑦ 方広 (大正03 p.615下) ; 仏弟難陀亦為沙門。難陀所使名優波離。……便成沙門、在比丘中隨列而坐。難陀後至次第作禮、到優波離即止不禮。
- ⑮ 集經 (大正03 p.911中) ; 爾時世尊、教化難陀積種之子、……汝來難陀、當就出家。……積子難陀自言、世尊、我不出家。……如是世尊、第二第三、……勸其出家、而彼難陀、不肯出家。……但敬仏故……我當出家

[C] 後世の仏伝資料

- ① 釈迦 (大正50 p.051中) ; 時仏弟難陀亦作沙門。未下鬚髮難有典作。剃頭師……。 (出普曜經)
- ③ 氏譜 (大正50 p.093中) ; 于時難陀亦作沙門。
- ⑤ JM. (p.033, 畑中 p.127) ; カピラヴァットウ (Kapilavatthu) 市に到着した日から3日目に (tatiye divase)、彼はナンダ (Nanda) 王子を出家せしめ、7日目に (sattame divase) ラーフラ (Rāhula) 王子を出家せしめた。
- ⑥ Bigandet. (vol. I p.178, 赤沼 p.226) ; この日、即ち、カチヤン月の満月の第二日は五大慶事の執行日であった。即ち仏陀の弟、難陀 (Nanda) は、一に灌頂をなし、二に元服をして冠をつけ、三に皇太子の位に上り、四に宮室を頂戴し、五に結婚することになっていた。仏陀は王宮

を辞し去る場合に、この若き太子に鉢を与えて、随従するようにしむけたまうた。……こういう次第で仏陀が迦維羅城到着の第二日目には難陀は比丘となった。

【49-02】 ナンダとラーフラの出家——ラーフラの出家

ラーフラ (Rāhula) の母はラーフラに父の釈尊に遺産を求めさせるが、釈尊は舍利弗に命じてラーフラを出家させる。

[A] 原始聖典

- ① ‘Buddhavaṃsa’ 26-04 (p.097) ; 今ここにあって (第2会にあって) 私 (釈尊) は私の実子に教誡した (idh'evāhaṃ etarahi ovaḍḍiṃ mama atrajaṃ) 。
- ① Vinaya ‘Mahākhandhaka’ (vol. I p.082) ; 世尊は随意の間王舎城に住されてから、カピラヴァットゥに遊行された。ラーフラの母 (Rāhulamātā) はラーフラに「彼はあなたの父です (eso te Rāhula pitā) 。行って遺産を求めなさい (gacchassu dāyajjaṃ yācāhi) 」と言ったので、ラーフラは世尊を訪ねた。世尊は舍利弗に命じてラーフラを沙弥として出家させた。
- ⑦四分律「受戒健度」 (大正22 p.809下) ; 爾時仏在釈翅搜迦維羅衛城尼拘律園。時世尊時到著衣持鉢入迦維羅衛城乞食。乞食已還出城。於時羅睺羅母、與羅睺羅在高閣上見仏來。語羅睺羅言。彼來者是汝父。爾時羅睺羅、疾疾下樓至如來所、頭面禮足在一面立。時世尊以手摩羅睺羅頭……。
- ⑧五分律「受戒法」 (大正22 p.116下) ; 爾時世尊在釈迦國……於後世尊。晨朝著衣持鉢到淨飯王宮。時羅睺羅母、將羅睺羅在高樓上、遙見仏來語言。汝見彼沙門不。答言見。又語言。彼是汝父、可往索父余財。仏既入宮於中庭露地坐。羅睺羅馳下趣仏、頭面禮足立仏影中。白言。是影甚樂願仏與我父余財。仏語言。汝審欲得不。答言欲得。仏便將還所住告舍利弗、汝可度之。
- ⑨十誦律「受具足戒法」 (大正23 p.152下) ; 仏在迦毘羅婆城。爾時淨飯王詣仏所……。王言。仏出家時、我心愁憂不忍不喜。難陀羅睺羅後諸子出家時、我心愁憂不忍不喜。今仏與我願。父母不放不得與出家……。從今父母不放不得與出家。若與出家、得突吉羅罪。
- ⑩僧祇律「單提042」 (大正22 p.365中) ; 大愛道耶輸陀羅羅云出家此中 (鼈本生經) 広説。
- ⑩僧祇律「雜誦跋渠」 (大正22 p.460中) ; 仏告舍利弗。汝去度羅睺羅出家。舍利弗言。我云何度羅睺羅出家。仏言。汝往教言。我羅睺羅歸依仏歸依法歸依僧、如是三説。我羅睺羅、歸依仏竟歸依法竟歸依僧竟。尽寿不殺生不盜不邪淫不妄語不飲酒。
- ⑪根本有部律「僧伽伐尸沙002」 (大正23 p.682下) ; 至具壽羅怛羅所住之房。告言諸妹。此是仏之子。捨俗出家。若不出家當為轉輪王。於大師衆弟子之中、愛重學處奉持無失最為第一。汝應至心禮敬其足。
- ⑪根本有部律「出家事」 (大正23 p.1035上) ; 仏在劫比羅城尼瞿陀林中住。時淨飯王……白仏言。世尊、唯願世尊與我一願。世尊問曰。大王、求何願耶。王曰。有少許願然諸釈種為言。世尊當作轉輪聖王、乘空往四天下、我等亦隨世尊。既出家已。我等所望悉皆不得。復次難陀當作力轉輪王、彼亦世尊度令出家亦絶希望。羅怛羅有大威德、當作大王、世尊今亦令其出家、我等釈種亦絶希望。
- ⑪根本有部律「破僧事」 (大正24 p.158下) ; 時諸釈種共相議曰。此非菩薩之子。耶輸陀羅聞此語已即便啼哭、抱羅怛羅自為盟誓以羅怛羅置於菩薩。昔在宮中解勞石上擲置菩薩洗浴池中、而發誓言。……衆人見之咸生希有。母復持児作如是念。若仏世尊六年苦行、成覺之後更住六年、滿十二歲重還於此。我令諸人目驗虛實。爾時世尊後時還至劫比羅城。……爾時世尊告舍利子曰。此羅怛羅、汝今將去與如法出家。時舍利子受仏教已便與羅怛羅如法出家。

[B] 仏伝經典

- ①NK. (vol. I p.091, 南伝28 p.196) ; 第七日目に (sattame divase) 羅睺羅の母 (Rāhulā-mātā) [なる妃] は、王子〔羅睺羅〕に飾を着けさせて、世尊の側へ伴れて行った。(財産を王子に譲るよう言わせる) 世尊は……具壽舍利弗 (Sāriputta) を呼び寄せ、「さて舍利弗よ、そなたこの羅睺羅 (ラーフラ Rāhula) 王子を出家させなさい」と曰うた。
- ⑥普曜 (大正03 p.536下) ; 俱夷携羅云来。……時王眷属皆懷沈疑。太子損国十有二年、何從懷妊生子羅云。……於時羅云厥年七歳。……仏語父王及諸臣曰、……此吾之正子縁吾化生勿咎俱夷也。
- ⑦方広 (大正03 p.616上) ; 耶輸陀羅携羅睺羅年已七歳。来至仏所……白仏言。……諸眷属皆有疑心。太子去国十有二載、何從懷孕生羅睺羅。……王及群臣……言善哉、羅睺羅真是仏子。
- ⑮集経 (大正03 p.906中) ; 其羅睺羅、如来出家六年已後、始出母胎。如来還其父家之日、其羅睺羅、年始六歳。……爾時世尊告輪頭檀王。……大王……其羅睺羅、真我之子、但是往昔業縁所逼、在胎六年。
- ⑮集経 (大正03 p.908中) ; 爾時世尊、将羅睺羅、至於静林、遙喚長老舍利弗言。汝舍利弗、将羅睺羅、令其出家。
- ⑮集経 (大正03 p.908下) ; 其迦葉維、復有別説。(王は羅睺羅の出家を恐れ、世尊に会わせないようにするが、楼閣上から世尊を見るや下りて仏の衣裏に入り、隠蔽して住す。舍利弗を和上として出家させようとするが、今十五才と指摘される。) ……十五而出家者、可為沙彌。
- ⑮集経 (大正03 p.909下) ; (五師の異説) 其羅睺羅、生二年後、菩薩爾時、方始出家。苦行六年、然後成道、成道七歳。方始来向迦毘羅城。如是次第、数羅睺羅出家之日、正年十五。
- ⑯MV. (vol. III p.256, Jones III p.245) ; 世尊がラーフラの父ということにラーフラ (Rāhula) に知らせた者は死刑にすると布告されるがラーフラの直感に混迷し、ヤショーダラー (Yaśodharā) 妃はついにラーフラに言う。ラーフラは出家を願うがシュッドダナ (Śuddhodana) 王は七日の猶予を乞う。世尊はシャーリプトラに授戒を頼み、ラーフラは三帰具足戒を受ける。

[C] 後世の仏伝資料

- ①釈迦 (大正50 p.051下) ; 瞿夷携羅云来。……時王僚属皆懷沈疑。
- ③氏譜 (大正50 p.095上) ; 未曾有云。仏令目連往本城、問父母三叔并耶輸、令割愛放子、得聖道已当還度母、絶死生本並隨仏語。父母又勅豪族五十、各捨一子隨羅睺往。時年九歳。仏令阿難剃髮。并五十人一時出家、舍利弗為和上目連闍梨授十戒。……普曜云。……彌沙塞云。仏自将羅睺還、令舍利弗度。
- ④統紀 (大正49 p.155下) ; 十二年(辛卯) 仏遣目連、白父王及耶輸曰。太子羅睺、年已九歳。応令出家。
- ⑤JM. (p.033, 畑中 p.127) ; 【49-01】に含む。
- ⑥Bigandet. (vol. I p.181, 赤沼 p.227) ; その第七日目であった。羅睺羅の母、耶輸陀羅妃は、羅睺羅に一番貴い疋衣をきせて…… (「王位相続の権利として宝物を下さい」といわせる。) ……仏陀は舍利弗を呼んで宣うた。「……彼を比丘としようと思う」。目連は羅睺羅の頭を剃って、黄衣を著せ、舍利弗は第一の教を授けた。

【49-03】 ナンダとラーフラの出家——浄飯王の依頼

釈尊、難陀、ラーフラと、すべての跡継ぎが出家してしまったことを嘆いた浄飯王は、両親の許可のない子を出家させないでほしいと依頼し、許される。

[A] 原始聖典

- ① Vinaya ‘Mahākhandaḥka’ (vol. I p.082) ; 世尊がラーフラを出家させたとき、浄飯王は「世尊が出家されたときには私の苦しみは少なくなかった。難陀の時もそうであった。しかしラーフラの場合は極めて大きい (bhagavati me pabbajite anappakaṃ dukkhaṃ ahoṣi, tathā Nande, adhimattaṃ Rāhule)」と嘆き、父母の許さない子を出家させないでほしいと願って、許された。
- ⑦ 四分律「受戒鍵度」(大正22 p.810上) ; 父母於子多所饒益、乳養瞻視逮其成長。世人所觀而諸比丘、父母不聽輒便度之。唯願世尊、自今已去勅諸比丘、父母不聽、不得度令出家。爾時世尊、默然受王語……。
- ⑧ 五分律「受戒法」(大正22 p.117上) ; 願仏從今勅諸比丘、父母不聽不得為道。仏為王說種種妙法示教利喜已……告諸比丘。從今父母不聽不得度。亦如上說。
- ⑨ 十誦律「受具足戒法」(大正23 p.152下) ; 仏在迦毘羅婆城。爾時浄飯王詣仏所……。王言。仏出家時、我心愁憂不忍不喜。難陀羅睺羅後諸子出家時、我心愁憂不忍不喜。今仏與我願。父母不放不得與出家……。從今父母不放不得與出家。若與出家、得突吉羅罪。
- ⑩ 僧祇律「雜誦跋渠」(大正22 p.421上) ; 仏住迦維羅衛國尼拘律樹積氏精舍……。爾時白浄王與衆多積種、往世尊所……。惟願世尊、制諸比丘、父母不聽勿令出家……。
- ⑪ 根本有部律「出家事」(大正23 p.1035上) ; 仏在劫比羅城尼瞿陀林中住。時浄飯王……願世尊制、若父母未許勿使出家。爾時世尊、默然受父王所請。

[B] 仏伝経典

- ① NK. (vol. I p.092, 南伝28 p.197) ; 王子(ラーフラ Rāhula)が出家すると、大王には一入苦惱が増して来た。その苦惱に耐えかねて、〔王は〕世尊に、「願わくは尊師よ、父母の承諾なくしては、その子を出家させ給わぬよう」といって、仏の承認を求め、仏は王に承引を与え給うた。
- ⑤ 集経(大正03 p.909中) ; 而白仏言。……我見世尊出家之後、作是思惟。欲以王位付與難陀。世尊於後、復令出家。……阿難陀……阿尼樓陀……婆提唎迦、……羅睺羅。……從今日後、作如是教制。諸比丘、有出家者、令諸父母、許出家已、然後乃放。

[C] 後世の仏伝資料

- ④ 統紀(大正49 p.155下) ; 浄飯王詣仏白曰。仏昔出家尚有難陀、今難陀已復出家。余情所寄唯在此子、今当出出国計永絶。……復集諸比丘立制、父母不聽不許出家。
- ⑥ Bigandet. (vol. I p.182, 赤沼 p.229) ; (浄飯)王は仏陀の所へ行いて、礼拝をなし、人の子にして、両親の許可を得なければ比丘となることが出来ないという制定をして貰いたいと願われた。